

(国語科)

主体的に考え、対話を通して互いに高め合い、深い学びを導く物語文の指導

大阪市立北中道小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

(1) 今日的教育課題から

これからの社会の担い手である児童が豊かに生きるためには、絶えず変化する社会の中で自ら学び、課題解決のために自ら必要な知識・技能を身に付けていくことや、見方や考え方の異なる他者と協働しながら課題解決していくことが必要である。また、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成することで、新たな価値につなげることも重視していく必要がある。このことを踏まえて、本研究では学習指導要領に示された主体的・対話的で深い学びの視点に立って授業改善に努め、思いや考えを伝え合い学び合える児童を育成していきたいと考えた。

(2) 学校教育目標から

令和6年度、学校教育目標を「明るく仲良く正しく生きる子」「心身ともに健康でねばり強くがんばる子」「自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力をもち個性と創造力豊かな子」、めざす子ども像を「仲間と認め合い自らより良く学ぶ子ども」とし、教育活動のあらゆる場面で主体的に他者と協働していくことを重視するようにしている。本研究において、協働的な授業づくりを通して主体的・対話的で深い学びの視点に立って授業改善していくことが、本校の学校教育目標を具現化する上で有効であると考えた。

(3) 児童の実態から

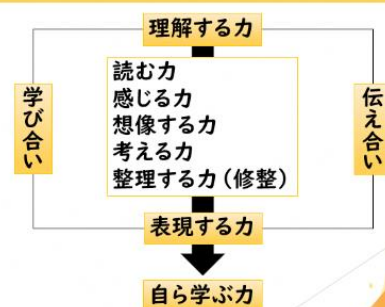
全国学力・学習状況調査「問題別集計結果」を分析すると、国語科においては、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかをみる」の項目に課題があることが明らかになった。

そこで、文章表現から分かる登場人物の心情を深く読み取ることができるよう、指導者が教材文分析に重点を置く必要があると考えた。そして、その教材文分析から各学年の実態に応じて、「挿絵・具体物の活用」「動作化・役割演技」「吹き出しの活用」「比べ読み」「心情曲線」「構造的な板書」「ひとり学び」等のツールの活用を本年度の研究に取り入れて考察することにした。

2. 研究の趣旨

「主体的・対話的で深い学びへと導く授業づくり」を実現するために、「理解する力」を読む力、感じる力、想像する力、考える力、整理する力の5つの力と捉え、その力を育てる活動をどの時間のどの場面に位置付けていくか、また、「理解する力」と「表現する力」をどのように位置付けていくかに主眼を置きました。この「理解する力」と「表現する力」を「伝え合い、学び合い」を通して、融合させることにより「自ら学ぶ力」として確かなものにしていく方法を授業を通して検証しようと考えました。

主体的・対話的で深い学びへと導く授業づくり



3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①「主体的」な学びを実現させる手立てについて

- (1) 興味・関心をもつ
- (2) つかみ・見通しをもつ

視点②「対話的」な学びを実現させる手立てについて

- (1) 根拠を見つける(テキストとの交流・対話)
- (2) 仲間との交流・対話
- (3) 指導者との交流・対話
- (4) 自己との交流・対話

視点③「深い学び」を実現させる手立てについて

- (1) 言葉への自覚を高める
- (2) 豊かな言語活動を育む
- (3) 伝え合う力を高める
- (4) 思考力・想像力を高める

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・文章表現から登場人物の心情に深く迫ることができた。
- ・言葉の意味を正しく理解させることができた。
- ・文章表現の工夫や面白さに気付くことができた。
- ・学んだことの整理をすることができた。
- ・児童が積極的に発表できるようになった。
- ・話し合いの時間を確保することができた。

(2) 今後の課題

- ・深い学びを設定するための問いかけの工夫。
- ・交流・対話の場面を絞る。
- ・対話を通して再整理する場を位置付ける。